

Oracle® Solaris 11.1 での印刷の構成と管理

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複製、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

Ce logiciel et la documentation qui l'accompagne sont protégés par les lois sur la propriété intellectuelle. Ils sont concédés sous licence et soumis à des restrictions d'utilisation et de divulgation. Sauf disposition de votre contrat de licence ou de la loi, vous ne pouvez pas copier, reproduire, traduire, diffuser, modifier, breveter, transmettre, distribuer, exposer, exécuter, publier ou afficher le logiciel, même partiellement, sous quelque forme et par quelque procédé que ce soit. Par ailleurs, il est interdit de procéder à toute ingénierie inverse du logiciel, de le désassembler ou de le décompiler, excepté à des fins d'interopérabilité avec des logiciels tiers ou tel que prescrit par la loi.

Les informations fournies dans ce document sont susceptibles de modification sans préavis. Par ailleurs, Oracle Corporation ne garantit pas qu'elles soient exemptes d'erreurs et vous invite, le cas échéant, à lui en faire part par écrit.

Si ce logiciel, ou la documentation qui l'accompagne, est concédé sous licence au Gouvernement des Etats-Unis, ou à toute entité qui délivre la licence de ce logiciel ou l'utilise pour le compte du Gouvernement des Etats-Unis, la notice suivante s'applique:

U.S. GOVERNMENT END USERS. Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

Ce logiciel ou matériel a été développé pour un usage général dans le cadre d'applications de gestion des informations. Ce logiciel ou matériel n'est pas conçu ni n'est destiné à être utilisé dans des applications à risque, notamment dans des applications pouvant causer des dommages corporels. Si vous utilisez ce logiciel ou matériel dans le cadre d'applications dangereuses, il est de votre responsabilité de prendre toutes les mesures de secours, de sauvegarde, de redondance et autres mesures nécessaires à son utilisation dans des conditions optimales de sécurité. Oracle Corporation et ses affiliés déclinent toute responsabilité quant aux dommages causés par l'utilisation de ce logiciel ou matériel pour ce type d'applications.

Oracle et Java sont des marques déposées d'Oracle Corporation et/ou de ses affiliés. Tout autre nom mentionné peut correspondre à des marques appartenant à d'autres propriétaires qu'Oracle.

Intel et Intel Xeon sont des marques ou des marques déposées d'Intel Corporation. Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques ou des marques déposées de SPARC International, Inc. AMD, Opteron, le logo AMD et le logo AMD Opteron sont des marques ou des marques déposées d'Advanced Micro Devices. UNIX est une marque déposée de The Open Group.

Ce logiciel ou matériel et la documentation qui l'accompagne peuvent fournir des informations ou des liens donnant accès à des contenus, des produits et des services émanant de tiers. Oracle Corporation et ses affiliés déclinent toute responsabilité ou garantie expresse quant aux contenus, produits ou services émanant de tiers. En aucun cas, Oracle Corporation et ses affiliés ne sauraient être tenus pour responsables des pertes subies, des coûts occasionnés ou des dommages causés par l'accès à des contenus, produits ou services tiers, ou à leur utilisation.

目次

はじめに	5
1 CUPS を使用したプリンタの設定と管理 (概要)	9
CUPS の概要	9
CUPS のプロセス	10
CUPS のサービス	10
CUPS を使用したプリンタと印刷待ち行列の設定	11
CUPS を使用した印刷待ち行列の管理	11
2 CUPS を使用したプリンタの設定 (タスク)	13
CUPS と連携動作する印刷環境の設定	13
▼ 印刷環境を設定する方法	14
アップグレード用の印刷環境の設定	15
CUPS コマンド行ユーティリティーを使用したプリンタの設定 (タスクマップ)	16
CUPS コマンド行ユーティリティーを使用したプリンタの設定と管理	17
CUPS コマンド行ユーティリティー	17
▼ lpadmin コマンドを使用してプリンタを設定する方法	18
デフォルトプリンタの設定	20
▼ プリンタのステータスを確認する方法	23
▼ ファイルをデフォルトプリンタに印刷する方法	25
▼ プリンタとプリンタアクセスを削除する方法	25
CUPS コマンドを使用したネットワークプリンタの設定	26
CUPS Web ブラウザインタフェースを使用したプリンタの設定と管理 (タスクマップ)	29
CUPS Web ブラウザインタフェースを使用したプリンタの設定と管理	29
CUPS Web ブラウザインタフェースを使用するための要件	29
CUPS Web ブラウザインタフェースへのアクセスに関する問題のトラブルシューティング	30

印刷管理タスク	31
「管理」タブについて	32
「プリンタ」タブについて	33
▼新しいプリンタを追加する方法	33
CUPS 印刷マネージャー GUI について	34
CUPS 印刷マネージャーの起動	34
CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの設定 (タスクマップ)	35
CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの設定	36
ローカルサーバーの構成	36
リモートサーバーの構成	36
印刷デバイスの選択	38
▼新しいローカルプリンタを設定する方法	39
3 CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの管理 (タスク)	43
CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの管理 (タスクマップ)	43
CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの管理	44
構成可能なプリンタプロパティ	44
▼構成済みプリンタのプロパティを変更する方法	45
▼プリンタの名前を変更する方法	47
▼プリンタ構成をコピーする方法	47
▼プリンタを削除する方法	48
▼プリンタを共有解除または共有する方法	48
▼プリンタを無効または有効にする方法	49
▼指定したプリンタの印刷ジョブを管理する方法	49
索引	51

はじめに

『Oracle Solaris 11.1での印刷の構成と管理』は、Oracle Solaris システム管理情報の大部分を提供するドキュメントセットの一部です。

本書は、読者が次のタスクを終了済みであることを前提としています。

- Oracle Solaris 11 ソフトウェアのインストールが完了していること
- 使用する予定のすべてのネットワークソフトウェアを設定済み

注 - この Oracle Solaris のリリースでは、SPARC および x86 系列のプロセッサアーキテクチャを使用するシステムをサポートしています。サポートされるシステムについては、[Oracle Solaris OS: Hardware Compatibility Lists](#)を参照してください。

サポートされるシステムについては、[Oracle Solaris OS: Hardware Compatibility Lists](#)を参照してください。

Oracle サポートへのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通じて電子的なサポートを利用することができます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> を参照してください。聴覚に障害をお持ちの場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
AaBbCc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第5章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

Oracle Solaris OS に含まれるシェルで使用する、UNIX のデフォルトのシステムプロンプトとスーパーユーザープロンプトを次に示します。コマンド例に示されるデフォルトのシステムプロンプトは、Oracle Solaris のリリースによって異なります。

- C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bash シェル、Korn シェル、および Bourne シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

CUPS を使用したプリンタの設定と管理 (概要)

この章では、Common UNIX Printing System (CUPS) を使用した印刷環境の管理の概要について説明します。これには、今まで LP 印刷サービスを使用してプリンタを管理していた場合に CUPS の使用に移行する方法が含まれます。この章で説明するインタフェースには、CUPS コマンド行ユーティリティー、CUPS Web ブラウザインタフェース、および CUPS 印刷マネージャー (デスクトップからアクセスできる GUI) が含まれます。

CUPS の概要

CUPS は、モジュール化されたオープンソースの印刷システムであり、プリンタ、印刷要求、および印刷待ち行列を管理するための基準としてインターネット印刷プロトコル (IPP) を使用します。CUPS は、ネットワークプリンタのブラウザおよび PostScript Printer Description ベースの印刷オプションもサポートします。CUPS は、ローカルネットワークの共通印刷インタフェースも提供します。

IPP は、ネットワーク上での印刷に関する標準プロトコルです。ほかの IP ベースのプロトコルと同じように、IPP はローカルまたはインターネット経由でリモートプリンタと通信するために使用できます。ほかのプロトコルと異なり、IPP はアクセス制御、認証、および暗号化もサポートするため、ほかのプロトコルよりはるかに高機能で安全な印刷ソリューションです。IPP は、ハイパーテキスト転送プロトコル (HTTP) の上位層に位置付けられます。HTTP は、インターネット上に存在する Web サーバーの基盤です。IPP を使用すると、ブラウザを介してプリンタやサーバーのステータス情報を確認したり、プリンタや印刷ジョブを管理したりできます。CUPS は、完全な IPP/1.1 ベースの印刷システムです。基本、ダイジェスト、およびローカル証明書各認証と、ユーザー、ドメイン、または IP ベースのアクセス制御を提供します。

CUPS では、動的なプリンタ検出とグループ化がサポートされます。CUPS は、`lpr` コマンドを独自のコマンドに置き換え、LPD プリンタドライバを独自の印刷ドライバに置き換えます。CUPS は、ページ記述のベースとなる言語として PostScript 形式

を使用する点でLP印刷サービスと似ています。CUPSはSystem VとBerkeleyの両方の印刷コマンドを提供するため、ユーザーおよびアプリケーションは今まで使用していたオプションをほとんどまたはまったく変更せずにCUPSの待ち行列に印刷できます。

最後に、CUPSには多くのオープンソースアプリケーションおよびツールキットによって使用されているアプリケーションレベルのインタフェースが含まれています。CUPSのバックエンドには、注釈付きのラスタイメージ形式(RIP)を処理するのに必要なインタフェースが含まれています。この形式とこれらのインタフェースのサポートは、ほかの重要なオープンソースの印刷ドライバ技術に統合されています。

CUPSは、LP印刷サービスに代わるOracle Solarisリリースのデフォルトで唯一の印刷サービスです。Oracle Solarisオペレーティングシステム(OS)でのCUPSを使用した印刷は、次を使用して管理します。

- CUPS コマンド行ユーティリティー - これらのコマンドには、新しいCUPS印刷コマンドのほか、今までLP印刷サービスで使用されていたいくつかの印刷コマンドも含まれています。
- CUPS Web ブラウザインタフェース - <http://localhost:631> にアクセスしてください。
- CUPS 印刷マネージャー GUI - この GUI には、GNOME 2.30 を含む Oracle Solaris Desktop からアクセスするか、または端末ウィンドウで `system-config-printer` コマンドを入力してアクセスします。

CUPSのプロセス

CUPSで印刷環境を管理するには、最初にCUPSの下で印刷待ち行列を作成する必要があります。印刷待ち行列は、USBポートやパラレルポートを介してシステムに直接接続されているプリンタを指している場合もあります。しかし、アプリケーションの構成方法によっては、待ち行列がネットワーク上のプリンタ、インターネット上のプリンタ、または複数のプリンタを指している場合もあります。印刷待ち行列は、どこを指しているかに関係なく、ほかのプリンタと同じように扱われます。

CUPSのサービス

CUPSのサービスは、次の2つの新しいサービス管理機能(SMF)サービスによって提供されます。

- `svc:/application/cups/scheduler`
このサービスは、`cupsd` デーモンを管理します。このデーモンは、キューイング、フィルタ処理、スプーリング、通知、IPPサポート、デバイス列挙、およびWeb管理を含む基本的な印刷サービスを提供します。

- `svc:/application/cups/in-lpd`
このサービスは、`cups-lpd` デーモンを実行します。このデーモンは、CUPS サービスに対して基本的な RFC-1179 (LPD プロトコル) のサポートを提供します。

プリンタ管理プロファイルと `solaris.smf.manage.cups` の承認によって、`root` アカウ
ントがないユーザーもこれらの SMF サービスを管理できます。

CUPS を使用したプリンタと印刷待ち行列の設定

CUPS で印刷環境を管理するには、最初に CUPS の下で印刷待ち行列を作成する必要
があります。

新しい印刷待ち行列は、次のいずれかの方法で作成できます。

- `lpadmin` コマンドを使用して、手動で印刷待ち行列を作成します。詳細
は、`lpadmin(8)` のマニュアルページを参照してください。
- Oracle Solaris Desktop からアクセスできる印刷マネージャー GUI を使用しま
す。詳細は、[35 ページの「CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの設定
\(タスクマップ\)」](#)を参照してください。

- Web ブラウザインタフェースを使用します。CUPS をインストールしたあ
と、`http://localhost:631/admin` にアクセスします。

- USB プリンタをローカルシステムに物理的に接続します。

システム上で CUPS が有効になっている場合は、ハードウェア抽象化レイヤー
(HAL) と `hal-cups-utils` ユーティリティが USB プリンタのホットプラグイベン
トを認識します。これらは、ローカルシステムに接続された新しいプリンタを認
識できます。`hal-cups-utils` ユーティリティは、新しいプリンタの印刷待ち行
列を CUPS の下で自動的に作成します。

さらに、CUPS は mDNS フレームワーク (Bonjour) と SNMP を使用したプリンタ検
出もサポートします。CUPS では、ほかの CUPS サーバーによって共有されるプ
リンタを CUPS のブラウズ機能によって検出できます。詳細は、[http://
www.cups.org/documentation.php/doc-1.5/options.html](http://www.cups.org/documentation.php/doc-1.5/options.html) を参照してください。

- ネットワーク印刷待ち行列の場合は、システム上の CUPS の「ブラウズ機能」を
有効にします (デフォルト)。ネットワーク上の別のシステムがリモートシステム
上の使用可能なプリンタを通知した場合は、CUPS によってそのプリンタが検出
され、新しい印刷待ち行列が作成されます。

CUPS を使用した印刷待ち行列の管理

ユーザーによって印刷要求が送信されるたびに、CUPS は、要求の送信先の印刷待ち
行列、ドキュメントの名前、およびページ記述に関する情報を含む印刷ジョブを作

成します。印刷ジョブには `queue-1`、`queue-2` のような番号が付けられているため、必要に応じて印刷される個々の印刷ジョブを監視したり、印刷ジョブを取り消したりできます。

印刷要求が送信されると、CUPS は次を実行します。

1. 使用するプログラム (フィルタ、印刷ドライバ、ポートモニター、およびバックエンドプログラム) を決定します。
2. これらのプログラムを実行して印刷ジョブを完了します。
3. 印刷ジョブが完了したら、印刷待ち行列からジョブを削除し、送信された次の印刷ジョブを印刷します。印刷ジョブが完了したとき、または印刷中にエラーが発生したときに通知するように CUPS を構成できます。

CUPS を使用したプリンタの設定 (タスク)

この章では、Common UNIX Printing System (CUPS) を使用した印刷環境の管理について説明します。これには、今まで LP 印刷サービスを使用してプリンタを管理していた場合に CUPS の使用に移行する方法が含まれます。この章で説明するインタフェースには、CUPS コマンド行ユーティリティー、CUPS Web ブラウザインタフェース、および CUPS 印刷マネージャー (デスクトップからアクセスできる GUI) が含まれます。

この章の内容は次のとおりです。

- 13 ページの「CUPS と連携動作する印刷環境の設定」
- 17 ページの「CUPS コマンド行ユーティリティーを使用したプリンタの設定と管理」
- 29 ページの「CUPS Web ブラウザインタフェースを使用したプリンタの設定と管理 (タスクマップ)」
- 35 ページの「CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの設定 (タスクマップ)」

CUPS と連携動作する印刷環境の設定

以前の Oracle Solaris リリースでは、LP 印刷サービスがデフォルトの印刷サービスでした。Oracle Solaris 11 リリース以降では、LP 印刷サービスは削除されます。Oracle Solaris 11 のデフォルトで唯一の使用可能な印刷サービスは、CUPS です。Oracle Solaris 11 の新規インストールを実行し、LP 印刷サービスを使用して構成されたプリンタがすでに存在する場合は、インストール後に CUPS を使用してこれらのプリンタを再構成する必要があります。

Oracle Solaris 11 Express から Oracle Solaris 11 にアップグレードする場合は、14 ページの「印刷環境を設定する方法」を参照してください。

CUPSの印刷環境に切り替えた結果、次の変更が発生しました。

- LPサービスを使用するように構成された既存のプリンタは動作しなくなり、再構成する必要があります。

プリンタを再構成するには、次のいずれかの方法を使用します。

- `lpadmin` コマンドを使用する方法。詳細は、18ページの「[lpadmin コマンドを使用してプリンタを設定する方法](#)」を参照してください。
- `http://localhost:631/help` の CUPS Web ブラウザインタフェースを使用する方法。詳細は、29ページの「[CUPS Web ブラウザインタフェースを使用したプリンタの設定と管理](#)」を参照してください。
- CUPS印刷マネージャーを使用する方法。詳細は、36ページの「[CUPS印刷マネージャーを使用したプリンタの設定](#)」を参照してください。
- 以前にNISネームサービスに保存された印刷設定は、CUPSでは使用されません。管理者は、CUPSの共有プリンタ機能を使用して構成されたネットワークプリンタを共有できます。CUPSでは、ネットワーク上のプリンタが自動検出され、手動設定なしでこれらのプリンタに印刷できます。CUPS印刷マネージャーを使用してプリンタを共有する方法については、36ページの「[リモートサーバーの構成](#)」を参照してください。
- `~/printers` ファイルでユーザーごとに構成されたプリンタは使用できなくなります。プリンタ構成は、CUPS Web ブラウザインタフェース、CUPSコマンド行ユーティリティ、またはCUPS印刷マネージャーグラフィカルユーザーインタフェースを使用して管理します。
- 以前のリリースでは、LP印刷サービスによって追加されたすべてのプリンタの詳細が `/etc/printers.conf` ファイルに格納されていました。Oracle Solaris 11 OSではLP印刷サービスが削除されたため、このファイルはCUPSの下でも存在しますが、このファイルにはローカル印刷待ち行列のサマリーが格納されます。OSをインストールすると、以前に `lp` 印刷コマンドを使用して構成されたプリンタに関する情報は削除されます。結果となる動作は、システム上でこれらのプリンタがまったく構成されなかったかようになります。既存のプリンタはCUPSを使用して再構成する必要があります。CUPSを使用して既存のプリンタを再構成する前に、これらのプリンタを削除する必要はありません。CUPSと連携して動作するように印刷環境を設定する方法については、14ページの「[印刷環境を設定する方法](#)」を参照してください。

▼ 印刷環境を設定する方法

CUPSと連携して動作するように現在の印刷環境を移行するには、既存のプリンタを再構成する必要があります。

- 1 **cups/scheduler** および **cups/in-lpd** SMF サービスがオンラインになっていることを確認します。

```
$ svcs -a | grep cups/scheduler
online 18:18:55 svc:/application/cups/scheduler:default
```

```
$ svcs -a | grep cups/in-lpd
online Sep_29 svc:/application/cups/in-lpd:default
```

- 2 これらのサービスを有効にするには、次のコマンドを入力します。

```
# svcadm enable cups/scheduler
# svcadm enable cups/in-lpd
```

- 3 **printer/cups/system-config-printer** パッケージがシステム上にインストールされているかどうかを判定します。

```
$ pkg info print/cups/system-config-printer
```

- このパッケージがすでにインストールされている場合は、CUPSを使用してプリンタを構成します。

プリンタを構成するには、lpadmin コマンドを使用するか、<http://localhost:631> の CUPS Web ブラウザインタフェースを使用するか、またはデスクトップからアクセスできる CUPS 印刷マネージャーを使用します。

- このパッケージがインストールされていない場合は、このパッケージをインストールします。

```
$ pkg install print/cups/system-config-printer
```

参照 CUPS の追加ドキュメントは次の場所にあります。

- <http://www.cups.org/documentation.php>
- <http://www.cups.org/doc-1.1/sam.html>

次の手順 これで、CUPS を使用してプリンタを構成できます。デフォルトプリンタを設定するには、LPDEST または PRINTER 環境変数を指定するか、lpoptions コマンドを使用します。手順については、20 ページの「コマンド行でデフォルトプリンタを設定する方法」および例 2-6 を参照してください。

アップグレード用の印刷環境の設定

未変更の Oracle Solaris 11 Express を実行している場合は、CUPS がすでにデフォルトの印刷サービスになっています。Oracle Solaris 11 にアップグレードする場合は、CUPS を使用して既存のプリンタを再構成する必要はありません。ただし、lp 印刷コマンドを使用して LP 印刷サービスに切り替え、プリンタを構成した場合は、アップグレード後に CUPS を使用してこれらの既存のプリンタを再構成する必要があります。



注意-LP印刷サービスを実行している場合は、`/etc/printers.conf` ファイルがアップグレード処理によって削除されるため、必ずアップグレード前にこのファイルをバックアップしてください。

システム上でどの印刷サービスが有効になっているかを判定するには、次のコマンドを入力します。

```
$ /usr/sbin/print-service -q
```

この章で説明したいいずれかの方法を使用して、既存のプリンタを再構成します。

CUPS コマンド行ユーティリティーを使用したプリンタの設定(タスクマップ)

タスク	説明	参照先
ローカル接続された新しいプリンタを設定します。	ローカル接続された新しいプリンタを設定するには、 <code>lpadmin</code> コマンドを使用します。	18 ページの「 <code>lpadmin</code> コマンドを使用してプリンタを設定する方法」
コマンド行でシステムのデフォルトプリンタを設定します。	ユーザーのデフォルトの出力先プリンタを設定するには、 <code>LPDEST</code> および <code>PRINTER</code> 環境変数を指定し、 <code>lpoptions</code> コマンドを使用します。	20 ページの「コマンド行でデフォルトプリンタを設定する方法」
プリンタのステータスを確認します。	すべてのプリンタまたは特定のプリンタのステータスを確認するには、 <code>lpstat</code> コマンドを使用します。このコマンドでは、使用できるプリンタを特定したり、それらのプリンタの特性を確認したりできます。	23 ページの「プリンタのステータスを確認する方法」
CUPS コマンドを使用してファイルを印刷します。	ファイルを印刷するには、 <code>lp</code> および <code>lpr</code> コマンドを使用します。	25 ページの「ファイルをデフォルトプリンタに印刷する方法」
プリンタとプリンタアクセスを削除します。	プリンタおよびプリンタアクセスを削除するには、 <code>lpoptions</code> コマンドを使用します。	25 ページの「プリンタとプリンタアクセスを削除する方法」

タスク	説明	参照先
異なるサブネット上にあるネットワークプリンタを追加します。	異なるサブネット上にあるネットワークプリンタを追加するには、 <code>lpadmin</code> コマンドを使用します。CUPS は、同じサブネット内にあると識別されるプリンタを自動的に検出します。	27 ページの「CUPS コマンドを使用して異なるサブネット上にあるネットワークプリンタを追加する方法」
使用可能なドライバとデバイスを一覧表示します。	使用可能なドライバとデバイスを一覧表示するには、 <code>lpinfo</code> コマンドを使用します。	28 ページの「使用可能なドライバとデバイスを一覧表示する方法」

CUPS コマンド行ユーティリティを使用したプリンタの設定と管理

このセクションでは、CUPS コマンドの概要とプリンタを設定および管理する方法について説明します。

CUPS コマンド行ユーティリティ

CUPS には、プリンタを設定し、それらのプリンタをネットワーク上のシステムからアクセスできるようにするためのさまざまなコマンドが用意されています。また、CUPS ではプリンタ構成を制御するプリンタ固有のオプションもいくつかサポートされます。次の表に、よく使用する CUPS コマンドを示します。

注 - 一部の CUPS コマンドの名前はレガシー LP 印刷コマンドと同じですが、CUPS の下でのコマンドの動作は異なる場合があります。

表 2-1 CUPS コマンド行ユーティリティ

コマンド	タスク
<code>cancel(1)</code>	印刷要求を取り消す
<code>cupsaccept(8)</code>	指定された宛先への印刷要求のキューイングを有効にする
<code>cupsdisable(8)</code>	指定されたプリンタまたはクラスを無効にする
<code>cupsenable(8)</code>	指定されたプリンタまたはクラスを有効にする
<code>cupsreject(8)</code>	指定された宛先への印刷要求のキューイングを拒否する
<code>lp(1)</code>	印刷要求を送信する
<code>lpadmin(8)</code>	プリンタまたはクラスの構成を設定または変更する

表 2-1 CUPS コマンド行ユーティリティー (続き)

コマンド	タスク
lpc(8)	CUPS の印刷待ち行列およびクラス待ち行列に対する限定的な制御を提供する
lpinfo(8)	CUPS サーバーに登録されている使用可能なデバイスまたはドライバを表示する
lpmove(8)	指定されたジョブまたはすべてのジョブを新しい出力先に移動する
lpoptions(1)	プリンタのオプションおよびデフォルトを表示または設定する
lpq(1)	現在の印刷待ち行列のステータスを表示する
lpr(1)	印刷要求を送信する
lprm(1)	印刷のために待ち行列に入っている印刷ジョブを取り消す
lpstat(1)	待ち行列および要求のステータス情報を表示する

▼ **lpadmin** コマンドを使用してプリンタを設定する方法

- 1 プリンタをシステムに接続したあと、プリンタの電源を入れます。
ハードウェアのスイッチとケーブル接続の要件については、プリンタのインストールドキュメントを参照してください。
- 2 管理者になります。
詳細は、『Oracle Solaris 11.1 の管理: セキュリティーサービス』の「割り当てられている管理権限を使用する方法」を参照してください。
- 3 **lpadmin** コマンドと **-p** オプションを使用して、**CUPS** にプリンタを追加します。
ここでは、CUPS の **lpadmin** コマンドのもっとも一般的に使用するオプションだけを掲載してあります。その他のオプションについては、**lpadmin(8)** のマニュアルページを参照してください。

```
$ /usr/sbin/lpadmin -p printer-name -E -v device -P full path to ppd file
```

 - p 追加するプリンタ名を指定します。
 - E 出力先を有効にして、ジョブを受け入れます。
 - v 印刷待ち行列の device-uri 属性を設定します。
 - P プリンタで使用する PPD (Postscript Printer Description) ファイルを指定します。次は、PPD ファイルの標準の場所です。

- /usr/share/cups/model/foomatic-db-ppds/*manufacturer name*
- /usr/share/cups/model/SUNWhpclip
- /usr/share/ppd/SUNWhpijs/HP

この手順の最後に示す例を参照してください。

- 4 (オプション) `lpadmin` コマンドに `-E` オプションを指定しない場合は、プリンタが印刷リクエストを受け付けて、それらのリクエストを印刷できるようにします。

```
$ cupsaccept printer-name
$ cupsenable printer-name
```

- 5 プリンタが正しく構成されていることを確認します。

```
$ lpstat -l -p printer-name
```

例 2-1 PPD ファイルを使用するプリンタを追加する

この例は、IP アドレスが `10.1.1.1` である JetDirect ネットワークインタフェースを使用して HP LaserJet プリンタ LaserJet を追加する方法を示しています。

```
$ /usr/sbin/lpadmin -p LaserJet -E -v socket://10.1.1.1 \
-P /usr/share/ppd/SUNWhpijs/HP/hp-laserjet_p4515-ps.ppd.gz
```

プリンタが構成されると、PPD ファイルのコピーが `/etc/cups/ppd` ディレクトリに置かれ、その名前が `queue-name.ppd` に変更されます。PPD ファイルのこのコピーのパスを見つけるには、次のコマンドを入力します。

```
# lpstat -l -p queue-name
```

例 2-2 パラレルポートに接続されたプリンタを追加する

この例は、パラレルポートに接続された HP DeskJet プリンタ DeskJet を追加する方法を示しています。この例は、PPD ファイルが `/usr/share/cups/model` ディレクトリ内にあることを前提としています。

```
$ /usr/sbin/lpadmin -p DeskJet -E -v parallel:/dev/lp1 -m drv:///sample.drv/deskjet.ppd
-m                プリンタの PPD ファイルを設定します
deskjet.ppd       CUPS に付属する HP DeskJet ドライバの PPD ファイル
```

例 2-3 シリアルポートに接続されたプリンタを追加する

この例は、シリアルポートに接続されたドットマトリックスプリンタを追加する方法を示しています。この例は、PPD ファイルが `/usr/share/cups/model` ディレクトリ内にあることを前提としています。

```
$/usr/sbin/lpadmin -p DotMatrix -E -m epson9.ppd \  
-v serial:/dev/ttyS0?baud=9600+size=8+parity=none+flow=soft
```

シリアルポート、ボーレート、ビット数、およびフロー制御を指定します。フロー制御が必要ない場合は、+flow=soft 属性を削除します。

デフォルトプリンタの設定

デフォルトプリンタは、次のいずれかの方法で指定できます。

- LPDEST または PRINTER 環境変数を指定する方法。
LPDEST 環境変数は、プリンタの出力先を決定します。LPDEST 変数が設定されていない場合は、PRINTER 変数が使用されます。PRINTER 変数は、出力デバイスまたは出力先を決定します。環境変数を指定してデフォルトプリンタを設定する手順については、[20 ページの「コマンド行でデフォルトプリンタを設定する方法」](#)を参照してください。
- 新しい lpoptions コマンドを使用する方法。
このコマンドを使用して、プリンタのオプションとデフォルトを表示または設定します。CUPS コマンドを使用してデフォルトプリンタを設定する手順については、[20 ページの「コマンド行でデフォルトプリンタを設定する方法」](#)を参照してください。詳細は、lpoptions(1) のマニュアルページを参照してください。
- lpadmin コマンドを使用する方法。

この印刷コマンドは、次の順序でデフォルトプリンタを検索します。

1. lp コマンドと -d オプションを使用して設定されたプリンタ名
2. LPDEST 環境変数の値
3. PRINTER 環境変数の値
4. lpoptions コマンドで設定されたプリンタ名
5. lpadmin コマンドで設定されたプリンタ名

CUPS Web ブラウザインタフェースを使用してプリンタを設定する手順については、[29 ページの「CUPS Web ブラウザインタフェースを使用したプリンタの設定と管理」](#)を参照してください。

▼ コマンド行でデフォルトプリンタを設定する方法

ローカルプリンタまたはリモートプリンタをデフォルトプリンタとして使用できます。

- 1 次のいずれかの方法を使用して、ユーザーのデフォルトプリンタを設定します。

- **PRINTER** 変数を指定する方法:

```
$ export PRINTER=printer-name
```

printer-name には、ユーザーのデフォルトプリンタとして割り当てるプリンタの名前を指定します。

注 - `lp` コマンドと `-d` オプションを使用すると、出力先プリンタが指定されますが、これはデフォルトプリンタではない可能性があります。 `-d` オプションが指定されなかった場合、`print` コマンドは `PRINTER` 環境変数に含まれるプリンタの情報を検索します。

- **LPDEST** 変数を指定する方法:

```
$ export LPDEST=printer-name
```

printer-name には、デフォルトプリンタとして割り当てるプリンタの名前を指定します。

注 - `LPDEST` と `PRINTER` の両方の環境変数が設定されている場合は、`LPDEST` が優先されます。

- **lpoptions** コマンドを使用する方法:

```
$ lpoptions -d printer-name
```

`-d` 宛先プリンタを指定します。

printer-name ユーザーのデフォルトプリンタとして割り当てるプリンタの名前を指定します。

詳細は、`lpoptions(1)` のマニュアルページを参照してください。

- 2 デフォルトプリンタを確認します。

```
$ lpstat -d
```

- 3 デフォルトプリンタに印刷するには、次のコマンドを入力します。

```
$ lp filename
```

例 2-4 PRINTER 変数を指定してデフォルトプリンタを設定する

次の例は、`PRINTER` 変数を使用してプリンタ `luna` をデフォルトプリンタとして設定する方法を示しています。

```
$ export PRINTER=luna
$ lpstat -d
system default destination: luna
```

例 2-5 LPDEST 変数を指定してデフォルトプリンタを設定する

次の例は、LPDEST 変数を指定することによってプリンタ luna をデフォルトプリンタとして設定する方法を示しています。

```
$ export LPDEST=luna
$ lpstat -d
system default destination: luna
```

例 2-6 lpoptions コマンドを使用してデフォルトプリンタを設定する

次の例は、プリンタ luna をデフォルトプリンタとして設定する方法を示しています。プリンタ luna は、LPDEST または PRINTER 環境変数が設定されていない場合にデフォルトプリンタとして使用されます。

```
$ lpoptions -d luna
$ lpstat -d
system default destination: luna
```

lpoptions コマンドは、デフォルトプリンタ luna のエントリを含む `~/cups/lpoptions` ファイルを作成します。デフォルトでは、すべての印刷ジョブが luna プリンタに出力されます。root ユーザーの場合、lpoptions コマンドは `/etc/cups/lpoptions` ファイルを作成します。

例 2-7 lpadmin コマンドを使用してデフォルトプリンタを設定する

次の例は、lpadmin コマンドを使用してプリンタ luna をデフォルトプリンタとして設定する方法を示しています。

```
$ lpadmin -d luna
$ lpstat -d
system default destination: luna
```

▼ 指定したプリンタに印刷する方法

- 1 (省略可能) プリンタのステータスを確認します。

```
$ lpstat -p printer-name
```

- 2 lp コマンドを実行するときに、出力先プリンタ名を指定します。

```
$ lp -d destination-printer filename
```

-d 宛先プリンタを指定します。

<i>destination-printer</i>	出力先プリンタとして割り当てられているプリンタ名を指定します。
<i>filename</i>	印刷するファイル名を指定します。

注 - `lpr` コマンドと `-p` オプションを使用して、特定のプリンタに印刷リクエストを送信することもできます。詳細は、`lpr(1)` のマニュアルページを参照してください。

例 2-8 `lp` コマンドを使用して指定したプリンタに印刷する

次の例は、プリンタ `luna` を出力先プリンタとして設定する方法を示しています。

```
$ lp -d luna abc.ps
request id is luna-1 (1 file(s))
```

```
$ lpstat -d
system default destination: saturn
```

`lp` コマンドの `-d` オプションは、デフォルトプリンタの設定より優先されます。

この例では、デフォルトプリンタは `saturn` です。

▼ プリンタのステータスを確認する方法

`lpstat` コマンドは、アクセス可能なプリンタとジョブに関する情報を表示します。

- 1 ネットワーク上の任意のシステムにログインします。
- 2 (省略可能) すべてのプリンタまたは特定のプリンタのステータスを確認します。
 ここには、もっとも一般的に使用するオプションだけを掲載してあります。その他のオプションについては、`lpstat(1)` のマニュアルページを参照してください。

```
$ lpstat [-d] [-l] [-p] printer-name [-t]
```

`-d` デフォルトプリンタが表示されます。

`-p printer-name` プリンタがアクティブかアイドル状態か、およびいつ使用可能または使用不可になったかが表示されます。

このコマンドで複数のプリンタ名を指定できます。プリンタ名を区切るには空白またはコンマを使用します。空白を使用する場合は、プリンタ名のリストを引用符で囲みます。`printer-name` を指定しなかった場合は、すべてのプリンタのステータスが表示されません。

`-l` プリンタとジョブの特性が表示されます。

-t 全てのプリンタのステータス(プリンタがアクティブかどうか、印刷要求を受け入れているかどうかなど)を含む、CUPS のステータス情報が表示されます。

例 2-9 プリンタのステータスを表示する

プリンタ luna のステータスを表示するには:

```
$ lpstat -p luna
printer luna is idle. enabled since Jul 12 11:17 2011. available.
```

システムのデフォルトプリンタを表示するには:

```
$ lpstat -d
system default destination: luna
```

プリンタ asteroid および luna の説明を表示するには:

```
$ lpstat -p "asteroid, luna" -D
printer asteroid faulted. enabled since Jan 5 11:35 2011. available.
unable to print: paper misfeed jam
```

```
Description: Printer by break room
printer luna is idle. enabled since Jan 5 11:36 2011. available.
Description: Printer by server room.
```

プリンタ luna の特性を表示するには:

```
$ lpstat -l -p luna
printer luna is idle. enabled since September 29, 2011 05:20:57 PM BST
Form mounted:
Content types: any
Printer types: unknown
Description: luna
Alerts: none
Location:
Connection: direct
On fault: no alert
After fault: continue
Users allowed:
(all)
Forms allowed:
(none)
Banner required
Charset sets:
(none)
Default pitch:
Default page size:
Default port settings:
```

▼ ファイルをデフォルトプリンタに印刷する方法

1 ネットワーク上の任意のシステムにログインします。

2 (省略可能) プリンタのステータスを確認します。

```
$ lpstat -p printer-name
```

3 次のいずれかの方法で印刷要求を発行します。

▪ **lp** コマンドを使用して:

```
$ lp filename
```

▪ **lpr** コマンドを使用して:

```
$ lpr filename
```

注- この手順では、基本的なコマンドのみを表示します。その他のオプションについては、`lp(1)` および `lpr(1)` のマニュアルページを参照してください。

▼ プリンタとプリンタアクセスを削除する方法

1 削除するプリンタへのアクセス権を持つ管理者または印刷クライアントになります。

2 印刷クライアントであるシステム上で、プリンタに関する情報を削除します。

```
$ lpoptions -x printer-name
```

printer-name 削除するプリンタの名前を指定します。

-x 指定したプリンタを削除します。

注- -x オプションは、特定のプリンタおよびインスタンスのデフォルトオプションのみを削除します。元の印刷待ち行列は、`lpadmin` コマンドを使用して削除されるまで保持されます。

3 管理者になります。

4 プリンタサーバーであるシステム上で、プリンタの印刷要求の受け入れを停止します。

```
$ cupsreject printer-name
```

この手順を実行すると、プリンタの削除処理中は、そのプリンタの待ち行列に新しい要求が入らなくなります。

- 5 プリンタを停止します。

```
$ cupsdisable printer-name
```

- 6 プリンタを削除します。

```
$ lpadmin -x printer-name
```

- 7 次のようにして、プリンタが削除されていることを確認します。

- a. 印刷クライアント上でプリンタが削除されていることを確認します。

```
$ lpstat -l -p printer-name
```

このコマンドは、プリンタが存在しないことを示すメッセージを表示します。

- b. 印刷サーバー上でプリンタが削除されていることを確認します。

```
$ lpstat -l -p printer-name
```

このコマンドは、プリンタが存在しないことを示すメッセージを表示します。

例 2-10 プリンタを削除する

次の例は、印刷クライアント terra と印刷サーバー jupiter からプリンタ luna を削除する方法を示しています。

```
terra# lptions -x luna
terra# lpstat -l -p luna
jupiter# lpadmin -x luna
jupiter# lpstat -l -p luna
lpstat: Invalid destination name in list "luna"!
```

CUPS コマンドを使用したネットワークプリンタの設定

ネットワークプリンタは、ネットワークに直接接続されているハードウェア印刷デバイスです。ネットワークプリンタは、固有のシステム名と IP アドレスを持っています。

CUPS は、同じサブネット内にあると識別されるプリンタを自動的に検出します。同じサブネット内に存在しないネットワークプリンタは、システム管理者が手動で追加する必要があります。ネットワークプリンタを構成するには、lpadmin コマンドを使用します。

▼ CUPS コマンドを使用して異なるサブネット上にあるネットワークプリンタを追加する方法

- 1 プリンタをネットワークに接続したあと、プリンタの電源を入れます。
ハードウェアのスイッチとケーブル接続の要件については、プリンタのインストールドキュメントを参照してください。
- 2 システムからプリンタに **ping** を実行します。
ping ip-address-of-network-printer
- 3 ネットワークプリンタの製造元とモデルを判定します。
lpinfo --make-and-model printer manufacturer name
たとえば、Xerox プリンタを一覧表示するには、次を入力します。

lpinfo --make-and-model Xerox -m
詳細は、28 ページの「使用可能なドライバとデバイスを一覧表示する方法」を参照してください。
- 4 **lpadmin** コマンドを使用してネットワークプリンタを追加します。
**lpadmin -p printer-name -E -v socket://ip-address-of-network-printer **
-m printer-make-and-model
-p 追加するプリンタ名を指定します。
-E 出力先を有効にして、ジョブを受け入れます。
-v 印刷待ち行列の device-uri 属性を設定します。
-m モデルディレクトリから、またはいずれかのドライバインタフェースを使用して、プリンタの PPD ファイルを設定します。
詳細は、lpadmin(8) のマニュアルページを参照してください。
- 5 プリンタが正しく構成されていることを確認します。
lpstat -l -p printer-name

例 2-11 異なるサブネット上にあるネットワークプリンタを追加する

次の例は、異なるサブネット上にあり、IP アドレスが 10.178.236.21 である Xerox プリンタ *luna* を追加する方法を示しています。

```
# ping 10.178.236.21
10.178.236.21 is alive

# lpinfo --make-and-model Xerox -m
foomatic:Xerox-2700_XES-xes.ppd Xerox 2700 XES Foomatic/xes
```

```
foomatic:Xerox-3700_XES-xes.ppd Xerox 3700 XES Foomatic/xes
foomatic:Xerox-4045_XES-xes.ppd Xerox 4045 XES Foomatic/xes
foomatic:Xerox-Phaser_5500DN-Postscript.ppd Xerox Phaser 5500DN Foomatic/Postscript\
gutenprint.5.2://xerox-able_1406/expert

# lpadmin -p luna -E -v socket://10.178.236.21 \
-m foomatic:Xerox-Phaser_5500DN-Postscript.ppd

# lpstat -l -p luna
printer luna is idle.  enabled since June 25, 2012 12:13:05 PM IST
printer luna is idle.  enabled since September 29, 2011 05:20:57 PM BST
Form mounted:
Content types: any
Printer types: unknown
Description: luna
Alerts: none
Location:
Connection: direct
On fault: no alert
After fault: continue
Users allowed:
(all)
Forms allowed:
(none)
Banner required
Charset sets:
(none)
Default pitch:
Default page size:
Default port settings:
```

▼ 使用可能なドライバとデバイスを一覧表示する方法

`lpinfo` コマンドは、CUPS サーバーに登録されている使用可能なデバイスとドライバを一覧表示します。

- 1 ネットワーク上の任意のシステムにログインします。
- 2 `lpinfo` コマンドを使用して、使用可能なドライバとデバイスを一覧表示します。
 - 使用可能なドライバを一覧表示するには、`-m` オプションを使用します。
`# lpinfo -m`
 - 使用可能なデバイスを一覧表示するには、`-v` オプションを使用します。
`# lpinfo -v`

例 2-12 使用可能なドライバを一覧表示する

すべての Xerox プリンタを一覧表示するには、次を入力します。

```
# lpinfo --make-and-model Xerox -m
foomatic:Xerox-2700_XES-xes.ppd Xerox 2700 XES Foomatic/xes
foomatic:Xerox-3700_XES-xes.ppd Xerox 3700 XES Foomatic/xes
foomatic:Xerox-4045_XES-xes.ppd Xerox 4045 XES Foomatic/xes
gutenprint.5.2://xerox-able_1406/expert
Xerox Able 1406 - CUPS+Gutenprint v5.2.4
gutenprint.5.2://xerox-able_1406/simple
Xerox Able 1406 - CUPS+Gutenprint v5.2.4 Simplified
```

CUPS Web ブラウザインタフェースを使用したプリンタの設定と管理 (タスクマップ)

タスク	説明	参照先
Web ブラウザインタフェースを使用するための要件を確認します。	CUPS Web ブラウザインタフェースにアクセスするには、システム上で CUPS サービスを有効にし、さらに CUPS パッケージをシステムにインストールする必要があります。	29 ページの「CUPS Web ブラウザインタフェースを使用するための要件」
CUPS Web ブラウザインタフェースを使用して新しいプリンタを追加します。	新しいプリンタをローカルシステムに追加するときは、CUPS 印刷マネージャー GUI の「管理」タブを使用します。	33 ページの「新しいプリンタを追加する方法」

CUPS Web ブラウザインタフェースを使用したプリンタの設定と管理

CUPS Web ブラウザ GUI を使用して、Oracle Solaris 11 の印刷環境を管理できます。このセクションでは、Web ブラウザインタフェースを使用するための要件と、実行できる管理タスクについて説明します。

CUPS Web ブラウザインタフェースを使用するための要件

Web ブラウザインタフェースにアクセスするには、<http://localhost:631> にアクセスします。サポートされているすべてのブラウザから CUPS Web ブラウザインタフェースにアクセスできます。実行するタスクによっては、ユーザー名とパスワードまたは root の役割とパスワードを入力するよう求められる場合があります。

CUPS Web ブラウザインタフェースを使用するには、次の要件に注意してください。

- CUPS Web ページにアクセスするホスト上に CUPS ソフトウェアパッケージをインストールする必要があります。Oracle Solaris 11 リリースを実行している場合は、これらのソフトウェアパッケージがデフォルトでシステム上にインストールされています。

次の CUPS パッケージが必要です。

- cups
- cups-libs
- foomatic-db
- foomatic-db-engine
- CUPS スケジューラ (svc:/application/cups/scheduler) もホストで実行されている必要があります。

CUPS スケジューラが実行されていることを確認するには、端末ウィンドウを開き、次のコマンドを入力します。

```
$ svcs cups/scheduler
STATE          STIME          FMRI
online         10:07:54      svc:/application/cups/scheduler:default
```

- CUPS Web ページへのアクセスに使用するブラウザ上で JavaScript スクリプト言語がサポートされ、有効になっている必要があります。

JavaScript 言語の使用は、現在のほとんどのブラウザでサポートされています。JavaScript 言語が有効になっているかどうかを判定するには、ブラウザの設定メニューを確認します。

CUPS Web ブラウザインタフェースへのアクセスに関する問題のトラブルシューティング

CUPS Web ブラウザインタフェースにアクセスしようとしてエラーが発生した場合は、29 ページの「CUPS Web ブラウザインタフェースを使用するための要件」を参照して、すべての要件が満たされていることを確認します。また、ブラウザのプロキシ設定を調べて、プロキシサーバーが構成されているかどうかを確認します。そうであれば、プロキシサーバーを無効にしてから、CUPS Web ブラウザインタフェースに再度アクセスします。

CUPS Web ブラウザインタフェースが動作しているかどうかを判定するには、次のように端末ウィンドウに telnet コマンドを入力して、CUPS ポート (ポート 631) に接続することもできます。

```
mymachine% telnet localhost 631
Trying ::1...
Connected to mymachine
Escape character is ^].
```

```
^]q
telnet> q
Connection to mymachine closed.
mymachine%
```

telnet セッションを停止するには、Control-] キーを押します。telnet セッションを終了するには、q キーを押します。

印刷管理タスク

CUPS Web ブラウザインタフェースを使用して実行できる一般的な印刷管理タスクには、次のようなものがあります。

- 印刷サーバー設定のカスタマイズ
- 印刷クライアントでの共通印刷サーバーの参照
- サーバー上の直接接続プリンタおよびプリンタクラスの設定と管理
- サーバー上のリモートプリンタおよびプリンタクラスの設定と管理
- プリンタクライアントからの印刷ジョブの管理

<http://localhost:631> の CUPS Web ブラウザインタフェースに最初にアクセスすると、「ホーム」タブが表示されます。このタブから、カテゴリ別に分類されたすべての印刷管理タスク、および CUPS のすべてのドキュメントにアクセスできます。

Web ブラウザインタフェースのメイン Web ページには、次のタブが表示されます。

- 「管理」 - CUPS サーバーの設定を含むほとんどの印刷管理タスクにアクセスできます。

Web ブラウザインタフェースの「管理」セクションに直接アクセスするには、<http://localhost:631/admin> にアクセスします。

- 「クラス」 - プリンタクラスを検索できます。

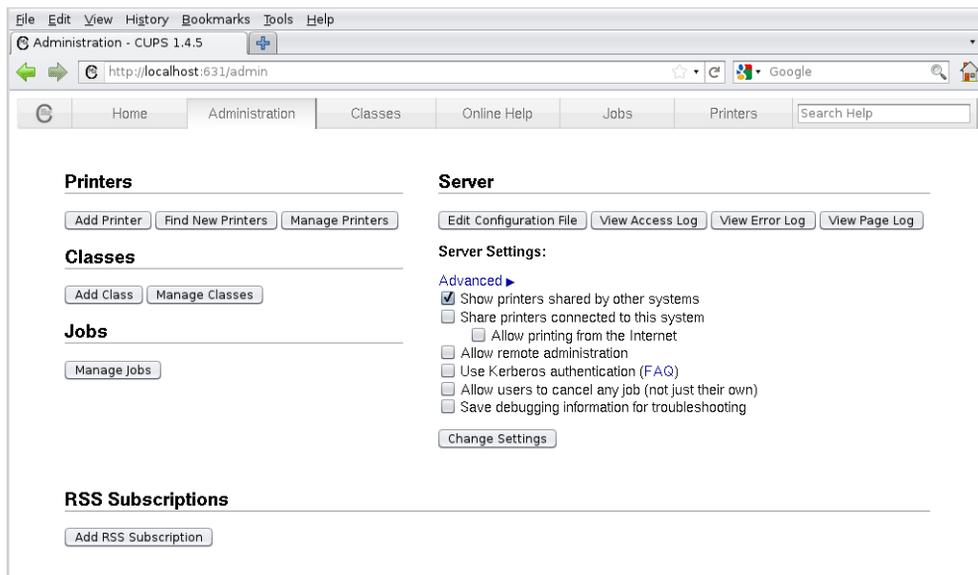
CUPS は、プリンタクラスと呼ばれるプリンタの集合を提供します。クラスに送信された印刷ジョブは、そのクラスに含まれる最初の使用可能プリンタに転送されます。クラスはほかのクラスのメンバーになることができます。したがって、高可用性の印刷のために大規模な分散型のプリンタクラスを定義できます。

- 「ドキュメント」 - マニュアル、システム管理ドキュメント、よくある質問、オンラインヘルプなどの CUPS ドキュメントにアクセスできます。
- 「ジョブ」 - 構成済みプリンタの印刷ジョブを表示および管理できます。
- 「プリンタ」 - 指定したプリンタの情報を表示したり、設定を変更したりできます。

「管理」タブについて

「管理」タブからほとんどの印刷タスクを実行できます。複数のタブから実行できるタスクもあります。基本的なサーバー設定も「管理」タブから変更できます。CUPS サーバーの構成の詳細は、`cupsd.conf(5)` のマニュアルページを参照してください。

次の図に、CUPS Web ブラウザインタフェースの「管理」タブの内容を示します。



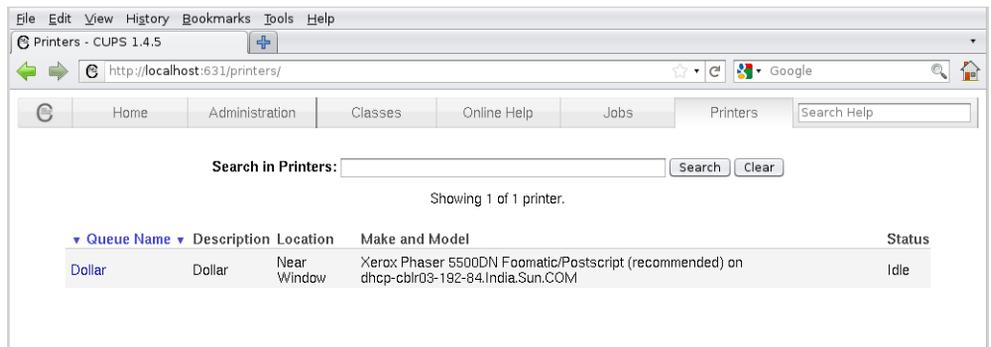
次の表に、「管理」タブから実行できるタスクのカテゴリと個々のタスクを示します。

タスクのカテゴリ	タスクの種類
プリンタ	<ul style="list-style-type: none"> ■ プリンタの追加 ■ 新しいプリンタの検索 ■ プリンタの管理
クラス	<ul style="list-style-type: none"> ■ クラスの追加 ■ クラスの管理
ジョブ	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジョブの管理

タスクのカテゴリ	タスクの種類
サーバー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 構成ファイルの編集 ■ ページログの表示

「プリンタ」タブについて

「プリンタ」タブでは、次の図に示すように、構成された印刷待ち行列の情報を表示および変更できます。



「プリンタ」タブから、次のタスクを実行することもできます。

- テストページを印刷する
- プリンタを停止する
- 印刷ジョブを拒否する
- 印刷ジョブを移動する
- すべての印刷ジョブを取り消す
- プリンタの公開を停止する
- プリンタを変更する
- プリンタオプションを設定する
- プリンタを削除する
- プリンタをデフォルトとして設定する
- プリンタの許可ユーザーを設定する

▼ 新しいプリンタを追加する方法

- 1 <http://localhost:631/admin> に移動して「管理」タブにアクセスします。
- 2 「プリンタの追加」ボタンをクリックします。

- 3 プロンプトが表示されたら、ログイン用のユーザー名とパスワードを入力するか、または **root** の役割とパスワードでログインします。
- 4 プロンプトに従って処理を完了します。

CUPS 印刷マネージャー GUI について

CUPS のサポートには、コマンド行またはデスクトップからアクセスできる GUI (`system-config-printer`) が含まれています。CUPS はデフォルトの印刷サービスであるため、直接接続プリンタの検出は自動的に行われます。CUPS は、ネットワーク上のほかの CUPS プリンタの共有が有効になっている場合に、これらのプリンタを自動的に検出することもできます。また、ネットワーク上の Windows でホストされているプリンタを参照するように CUPS を構成することもできます。詳細は、[36 ページの「ローカルサーバーの構成」](#)を参照してください。

CUPS 印刷マネージャーを使用して、新しい印刷待ち行列の作成、印刷待ち行列のプロパティの変更、既存の印刷待ち行列の削除などの特権アクションを実行すると、`root` パスワードを入力するよう求められます。

CUPS 印刷マネージャーの起動

CUPS 印刷マネージャー GUI を起動するには、次のいずれかの方法を使用します。

- コマンド行から次のコマンドを入力します。
`$ system-config-printer`
- デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」の順に選択します。



CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの設定 (タスクマップ)

タスク	説明	参照先
ローカル印刷待ち行列を管理するように CUPS サーバーを構成します。	CUPS 印刷マネージャーを使用してローカルサーバーを構成できます。システムは、物理的に接続されたプリンタとそのシステム上に作成された印刷待ち行列のローカルサーバーとして動作します。	36 ページの「ローカルサーバーの構成」
リモート印刷待ち行列を管理するように CUPS サーバーを構成します。	CUPS 印刷マネージャーを使用してリモートシステムに接続し、印刷待ち行列を管理できます。リモート管理を許可するようにリモートシステムを構成する必要があります。	36 ページの「リモートサーバーの構成」
新しいローカルプリンタを設定します。	ローカルシステムに新しいプリンタを接続すると、プリンタが自動的に検出され、その「プロパティ」ダイアログが開きます。ここから、CUPS 印刷マネージャー GUI を使用して新しいプリンタの構成を完了できます。	39 ページの「新しいローカルプリンタを設定する方法」

CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの設定

このセクションでは、CUPS 印刷マネージャーを使用してプリンタを設定するために必要なタスクについて説明します。

ローカルサーバーの構成

CUPS を使用する各システムは、印刷サーバーと印刷クライアントの両方になることができます。システムは、物理的に接続されたプリンタとそのシステム上に作成された印刷待ち行列のサーバーとして動作します。

ローカル CUPS サーバーの詳細設定とオプションを構成するには、CUPS 印刷マネージャーを起動し、「サーバー」→「設定」の順に選択します。「基本サーバー設定」ダイアログで、「詳細」ボタンをクリックします。次の詳細サーバー設定とオプションを表示または構成できます。

- 「ジョブ履歴」 - 指定した (1 台または複数台の) プリンタの印刷ジョブ履歴を制御します。
- 「サーバーの参照」 - 印刷待ち行列のポーリングを目的とする CUPS による参照を特定の印刷サーバーに限定できます。

「基本サーバー設定」ダイアログで、次の設定を構成できます。

- 「ほかのシステムで共有されているプリンタを表示する」 - ほかの CUPS 印刷待ち行列をローカルシステムで表示できるようにします。
- 「このシステムに接続されている共有プリンタを公開する」 - システムに構成されている印刷待ち行列のリストを、ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のほかのシステムに公開します。LAN を超えてアクセスできるように印刷待ち行列を公開することもできます。「インターネットからの印刷を許可する」オプションは、この設定を選択した場合にのみ使用できます。
- 「リモート管理を許可する」 - CUPS 印刷マネージャーと CUPS Web ブラウザインタフェースのどちらかを使用して、リモートシステムから印刷待ち行列を管理できるようにします。
- 「ユーザーによる任意のジョブ (他人のジョブも含む) の取り消しを許可する」 - ユーザーが任意の印刷ジョブを取り消すことができるようにします。
- 「トラブルシューティング用にデバッグ情報を保存する」 - トラブルシューティングを目的としたデバッグ情報のロギングを有効にします。

リモートサーバーの構成

リモート印刷待ち行列を管理するように CUPS を構成できます。通常は、同じローカルエリアネットワーク (LAN) 内にリモートサーバーを接続できます。接続先

のリモート印刷サーバーによって所有される印刷待ち行列のみを変更できます。各リモートサーバーは、指定されたプリンタの「設定」ダイアログに基づいて、構成済みの印刷待ち行列を共有したり、リモートで変更したりできます。

公開プリンタは、LAN上のサーバーが `cupsd.conf` ファイルでの参照の構成方法に基づいて公表したプリンタです。共有プリンタや公開プリンタはリモート印刷クライアントから検出できますが、共有されていないプリンタや公開されていないプリンタはネットワーク上に通知されません。

注- リモート印刷待ち行列を管理するには、適切な承認を受ける必要があります。Oracle Solaris 11 リリースでは、リモートサーバーに対して root パスワードを指定する必要があります。

▼ リモート印刷待ち行列を管理するように **CUPS** を構成する方法

- 1 デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、**CUPS**印刷マネージャー GUI を起動します。

```
$ system-config-printer
```
- 2 「サーバー」メニューから「設定」を選択します。
「基本サーバー設定」ダイアログが表示されます。
- 3 次のオプションを選択します。
 - 「このシステムに接続されている共有プリンタを公開する」- リモート印刷クライアントから検出できる共有プリンタまたは公開プリンタが表示されます。このオプションを有効にしなかった場合は、リモートサーバーに接続したときに、一部のプリンタが使用可能なプリンタのリストに表示されないことがあります。
 - 「リモート管理を許可する」- リモートサーバーに接続できるようにします。
- 4 「了解」をクリックします。
- 5 「サーバー」メニューから「接続」オプションを選択します。
「CUPSサーバーへの接続」ダイアログが表示されます。
- 6 **CUPS**サーバーのリストから目的のリモートサーバーを選択します。
- 7 (省略可能) 暗号化が必要な場合は、「暗号化を必要とする」オプションを選択します。
- 8 「接続」ボタンをクリックします。

9 リモートシステムの root パスワードを入力します。

ローカル印刷待ち行列を管理するのと同じように、リモートシステム上の印刷待ち行列をリモートで管理できます。

印刷デバイスの選択

新しいプリンタを設定する場合や、構成済みプリンタのプロパティを変更する場合は、そのプリンタに対応するデバイスを選択する必要があります。次の表に、「デバイスの選択」ウィンドウに表示される可能性があるデバイスの選択肢を示します。

デバイス	説明	どのような場合に使用するか
<i>printer-name</i>	自動的に検出されたプリンタを指定します。	新しいプリンタを設定するときに、このデバイスを選択します。
<i>printer-name (serial-number)</i>	自動的に検出されたプリンタを指定し、シリアル番号を追加します。	新しく検出されたプリンタを設定するときに、このデバイスを選択します。 注-ほとんどの場合、このデバイスは <i>printer-name</i> デバイスと同じデバイスです。違いは、一方のエントリにはプリンタのシリアル番号が含まれるのに対して、もう一方には含まれないことです。同じデバイスに対して2つのエントリが表示されるのは、 <i>system-config-printer</i> バックエンドと HAL バックエンドの両方が USB デバイスを検出するためです。新しいプリンタを構成するときは、どちらのデバイスを指定してもかまいません。
シリアルポート # <i>number</i>	ローカルシステムのシリアルポートに接続されたデバイスを指定します。	ローカルシステムのシリアルポートに接続されたプリンタを設定するときに、このデバイスを選択します。
AppSocket/HP Jet Direct	ネットワークプリンタとの通信手段(事実上 TCP 接続)を使用するデバイスを指定します。	ネットワーク上のリモート印刷待ち行列を設定するときに、このデバイスを選択します。

デバイス	説明	どのような場合に使用するか
IPP (Internet Printing Protocol)	IPP を実行しているホスト上のネットワークプリンタの設定に使用するデバイスを指定します。	IPP を実行しているホスト上のネットワークプリンタモデルを設定するときに、このデバイスを選択します。
LPD/LPR ホストまたはプリンタ	LPD ネットワークプリンタに接続するために使用するデバイスを指定します。	LPD を使用するリモート印刷待ち行列を設定するときに、このデバイスを選択します。 注- このデバイスは、最新のプリンタモデルには対応していない可能性があります。
不明	サーバーメッセージブロック (SMB) ホストを使用するデバイスを指定します。	Windows ホストシステム上のプリンタを設定するときに、このデバイスを選択します。 注- このデバイスは、すべてのシステムで表示されるとはかぎりません。
その他	ユーザーが定義したデバイス URI を使用するデバイスを指定します。	独自の宛先またはデバイス URI (たとえば、file:///dev/printers/0) を指定してプリンタを設定するときに、このデバイスを選択します。CUPS の下で file: デバイス URI のサポートを有効にする必要があります (cupsctl FileDevice=yes)。

▼ 新しいローカルプリンタを設定する方法

次の手順では、CUPS 印刷マネージャー GUI を使用して新しいローカル接続プリンタを設定する方法について説明します。

- 1 新しいプリンタをローカルシステムに接続し、そのプリンタの電源を入れます。
 - プリンタがシステムによって検出されると、「プリンタ構成」ダイアログが開き、新しく検出されたプリンタの情報が表示されます。

- 自動的に検出されなかった新しいプリンタを追加する場合は、次の手順を実行します。
 - a. デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、CUPS印刷マネージャーを起動します。

```
$ system-config-printer
```
 - b. メインメニューから「サーバー」→「新規」→「プリンタ」を選択します。
あるいは、メニューバーにある「新規作成」アイコンをクリックすることもできます。
 - c. プロンプトが表示されたら、**root** パスワードを入力します。
「プリンタ構成」ダイアログが開き、すべての構成済みプリンタと新しく接続されたプリンタが表示されます。
- 2 「デバイスの選択」ウィンドウで、適切なデバイスを選択し、「次へ」をクリックします。

CUPS ではデフォルトで、システムに物理的に接続されている USB デバイスか、または HAL によって検出されたデバイスが選択されます。これらの2つのエントリが同じプリンタである場合があることに注意してください。デバイスの選択の詳細については、[38 ページの「印刷デバイスの選択」](#)を参照してください。
- 3 「ドライバの選択」ウィンドウで、プリンタの種類を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 デフォルトのプリンタドライバを受け入れるか、PPD ファイルを指定するかを決定します。
 - デフォルトのドライバを使用するには、「データベースからプリンタを選択する」オプションを選択したままにします。
 - PPD ファイルを指定するには:
 - a. 「PPD ファイルを指定する」オプションを選択します。
「ファイルを選択」ウィンドウが表示されます。
 - b. システム上の指定する PPD ファイルを見つけ、「開く」をクリックして、その PPD ファイルを新しいプリンタに関連付けます。

- 5 次の「ドライバの選択」ウィンドウの左のペインから、プリンタモデルを選択します。右のペインから、プリンタドライバを選択します。次に、「次へ」をクリックします。

デフォルトでは、プリンタのために「推奨される」プリンタモデルとプリンタドライバが CUPS によって選択されます。ただし、必要に応じて、使用可能なドライバのリストから別の選択を行うこともできます。
- 6 「インストールできるオプション」ウィンドウで、特定のプリンタモデルに使用可能な任意のオプションを変更し、「次へ」をクリックします。

詳細は、[44 ページの「構成可能なプリンタプロパティ」](#)を参照してください。
- 7 「プリンタの説明」ウィンドウで、次の情報を指定します。
 - プリンタ名
 - 説明
 - 場所
- 8 変更を保存するには、「適用」をクリックします。プロンプトが表示されたら、**root** パスワードを入力します。

変更を保存すると、新しく構成されたプリンタが「CUPS 印刷マネージャー」ウィンドウに表示されます。
- 9 (省略可能) プリンタをデフォルトとして設定するには、そのプリンタ名を右クリックします。
 - a. 「デフォルトとして設定」オプションを選択します。
 - b. 「デフォルトプリンタの設定」ウィンドウで、次のいずれかのオプションを選択します。
 - 「システム全体のデフォルトプリンタとして設定する」(デフォルト)
 - 「個人のデフォルトプリンタとして設定する」
- 10 「了解」をクリックしてプリンタ構成を保存します。
- 11 (省略可能) プリンタが正しく構成され、正常に動作していることを確認するには、テストページを印刷します。

CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの管理 (タスク)

この章では、Common UNIX Printing System (CUPS) を使用した印刷環境の管理について説明します。これには、今まで LP 印刷サービスを使用してプリンタを管理していた場合に CUPS の使用に移行する方法が含まれます。この章で説明するインタフェースには、CUPS コマンド行ユーティリティー、CUPS Web ブラウザインタフェース、および CUPS 印刷マネージャー (デスクトップからアクセスできる GUI) が含まれます。

CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの管理 (タスクマップ)

タスク	参照先
構成済みプリンタのプロパティーを変更します。	45 ページの「構成済みプリンタのプロパティーを変更する方法」
プリンタの名前を変更するか、またはプリンタ構成をコピーします。	47 ページの「プリンタの名前を変更する方法」
既存のプリンタを削除します。	48 ページの「プリンタを削除する方法」
プリンタを共有解除または共有します。	48 ページの「プリンタを共有解除または共有する方法」
プリンタを無効または有効にします。	49 ページの「プリンタを無効または有効にする方法」
構成済みプリンタの印刷ジョブを管理します。	49 ページの「指定したプリンタの印刷ジョブを管理する方法」

CUPS 印刷マネージャーを使用したプリンタの管理

このセクションでは、CUPS 印刷マネージャーを使用してプリンタを管理する方法について説明します。

構成可能なプリンタプロパティ

構成済みプリンタのプロパティを変更するには、「プリンタのプロパティ」ダイアログのオプションを使用します。手順については、[45 ページの「構成済みプリンタのプロパティを変更する方法」](#)を参照してください。

「プリンタのプロパティ」ダイアログには、新規および既存のプリンタを構成するために次の 6 つのセクションが含まれています。

■ 設定

「設定」セクションでは、次のプロパティを構成できます。

説明	プリンタに関する説明テキスト。
場所	プリンタの物理的な場所の説明。
デバイス URI	プリンタへのアクセスに使用されるプロトコルの情報。たとえば、RFC-1179 プロトコルを指定するには LPD を使用し、Internet Printing Protocol を指定するには IPP を使用します。
製造元とモデル	プリンタの製造元とモデルに関する情報。 「製造元とモデル」オプションのデフォルト設定は、「変更」ボタンをクリックして変更できます。
プリンタ状態	プリンタの現在のステータスに関する情報。
テストとメンテナンス	次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ テストページを印刷 ■ セルフテストページの印刷 ■ プリントヘッドの清掃

■ ポリシー

「ポリシー」セクションでは、プリンタの動作方法を制御するプロパティを構成できます。

状態	次のプリンタの状態を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 有効 ■ リクエストの受け入れ中 ■ 共有
----	--

同時に複数の状態を指定できます。

ポリシー エラーの状態にあるときのプリンタの動作方法を指定します。

バナー 各印刷ジョブで開始または終了のバナーページを印刷するかどうかを指定します。

- アクセス制御

「許可」または「拒否」リストによって、どのユーザーがプリンタに印刷できるかを決定します。

- プリンタオプション

「プリンタオプション」セクションでは、プリンタ固有のオプションを構成できます。

たとえば、HP LaserJet 3015 の場合は、次の構成可能なオプションが表示されません。

- イメージングオプション
- 解像度オプション
- 透かし/重ね

オプションの数と種類は、指定されたプリンタに関連付けられている PPD ファイルによって決定されます。

- ジョブオプション

部数、用紙方向、特定のイメージオプションなど、印刷ジョブに関連するオプションを決定します。オプションの数と種類は、指定されたプリンタに関連付けられている PPD ファイルによって決定されます。

▼ 構成済みプリンタのプロパティーを変更する方法

次の手順では、既存のプリンタの基本設定を変更する方法について説明します。CUPS印刷マネージャー GUI を使用して変更できるすべてのプロパティーの完全な説明については、44 ページの「構成可能なプリンタプロパティー」を参照してください。

- 1 デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、CUPS印刷マネージャー GUI を起動します。

```
$ system-config-printer
```

「プリンタ構成」ダイアログが開き、すべての構成済みプリンタと新しく検出されたプリンタが表示されます。

- 2 プロパティーを変更するプリンタの名前を右クリックし、「プロパティー」を選択します。

「プリンタのプロパティー」ダイアログが表示されます。「プロパティー」ダイアログは5つのセクションに分かれており、各セクションにはカテゴリ別に分類されたプロパティーが含まれています。デフォルトでは、ダイアログの「設定」セクションが表示されます。

「設定」セクションでは次の設定を変更できます。

 - 説明
 - 場所
 - デバイス URI
 - 製造元とモデル
- 3 プリンタの説明または場所を変更するには、対応するテキストフィールドに新しい情報を入力します。
- 4 デバイス URI を変更するには:
 - a. 設定の横にある「変更」ボタンをクリックします。
 - b. 使用可能なデバイスのリストからデバイスを選択し、「適用」をクリックします。

使用可能なデバイスについては、[38 ページの「印刷デバイスの選択」](#)を参照してください。
 - c. プロンプトが表示されたら、**root** パスワードを入力します。

「設定」セクションに戻ります。
- 5 プリンタの製造元とモデルを変更するには:
 - a. 設定の横にある「変更」ボタンをクリックします。
 - b. 「ドライバの選択」ウィンドウで、プリンタの製造元を選択し、「次へ」をクリックします。

注-CUPSのデフォルトでは、「データベースからプリンタを選択する」オプションが使用され、適切なプリンタの製造元が自動的に選択されます。または、独自の PPD ファイルを指定することもできます。手順については、[手順 3 の 39 ページの「新しいローカルプリンタを設定する方法」](#)を参照してください。

- c. 次の「ドライバの選択」ウィンドウの左のペインから、プリンタモデルを選択します。右側のペインでプリンタドライバを選択して、「次へ」をクリックします。
 - d. 「既存の設定」ダイアログで、次のオプションから選択し、「適用」をクリックします。
 - 新しい PPD のままで使用します。
 - 古い PPD からオプション設定をコピーしようとしています。
 - e. プロンプトが表示されたら、**root** パスワードを入力します。
「プリンタのプロパティ」ダイアログの「設定」セクションに戻ります。
- 6 「了解」をクリックします。

▼ プリンタの名前を変更する方法

- 1 デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、**CUPS** 印刷マネージャー GUI を起動します。

```
$ system-config-printer
```

プリンタの構成ダイアログが開き、すべての構成済みプリンタと新しく検出されたプリンタが表示されます。
- 2 名前を変更するプリンタの名前を右クリックします。
- 3 「名前を変更」オプションをクリックします。
- 4 プリンタの新しい名前を入力します。
- 5 プロンプトが表示されたら、**root** パスワードを入力します。
- 6 「了解」をクリックして変更を保存します。

▼ プリンタ構成をコピーする方法

- 1 デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、**CUPS** 印刷マネージャー GUI を起動します。

```
$ system-config-printer
```

プリンタの構成ダイアログが開き、すべての構成済みプリンタと新しく検出されたプリンタが表示されます。

- 2 構成をコピーするプリンタの名前を右クリックします。
- 3 「コピー」オプションをクリックします。
- 4 「プリンタの複製」ウィンドウで、プリンタの名前を入力し、「了解」をクリックします。
- 5 プロンプトが表示されたら、**root**パスワードを入力します。
- 6 「了解」をクリックします。

▼ プリンタを削除する方法

- 1 デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、**CUPS**印刷マネージャー GUI を起動します。

```
$ system-config-printer
```

プリンタの構成ダイアログが開き、すべての構成済みプリンタと新しく検出されたプリンタが表示されます。

- 2 削除するプリンタの名前を右クリックし、「削除」を選択します。
- 3 「削除の確認」ダイアログで「了解」をクリックします。

▼ プリンタを共有解除または共有する方法

デフォルトでは、新しいプリンタは「共有」オプションを有効にして構成されます。これは、プリンタがローカルネットワーク上で公開されることを意味します。この手順では、プリンタの共有を解除したり、共有されていないプリンタを有効にしたりする方法について説明します。

- 1 デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、**CUPS**印刷マネージャー GUI を起動します。

```
$ system-config-printer
```

プリンタの構成ダイアログが開き、すべての構成済みプリンタと新しく検出されたプリンタが表示されます。

- 共有を解除する(または共有する)プリンタの名前を右クリックします。
- 必要に応じて共有または共有解除オプションを選択します。
- プロンプトが表示されたら、**root** パスワードを入力します。
- 「了解」をクリックします。

▼ プリンタを無効または有効にする方法

CUPS 印刷マネージャーを使用して新しいプリンタを構成すると、そのプリンタはデフォルトで有効になります。この手順では、プリンタを無効または有効にする方法について説明します。

- デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、**CUPS** 印刷マネージャー **GUI** を起動します。

```
$ system-config-printer
```

プリンタの構成ダイアログが開き、すべての構成済みプリンタと新しく検出されたプリンタが表示されます。

- 無効(または有効)にするプリンタの名前を右クリックします。
- 必要に応じて「有効」または「無効」オプションを選択します。
- プロンプトが表示されたら、**root** パスワードを入力します。
- 「了解」をクリックします。

▼ 指定したプリンタの印刷ジョブを管理する方法

- デスクトップのメインメニューバーから「システム」→「管理」→「印刷マネージャー」を選択するか、端末ウィンドウで次のコマンドを入力して、**CUPS** 印刷マネージャー **GUI** を起動します。

```
$ system-config-printer
```

プリンタの構成ダイアログが開き、すべての構成済みプリンタと新しく検出されたプリンタが表示されます。

- 2 印刷ジョブを管理するプリンタの名前を右クリックし、「印刷待ち行列の表示」を選択します。

「ドキュメント印刷ステータス (*printer-name*)」ウィンドウが開き、指定したプリンタの印刷ジョブがすべて一覧表示されます。

このウィンドウには次の情報が表示されます。

 - ジョブ
 - ユーザー
 - ドキュメント
 - プリンタサイズ
 - 送信時間
 - ステータス
- 3 完了したジョブまたはプリンタのステータスに関する情報を表示するには、「表示」メニューから該当するオプションを選択します。
- 4 印刷ジョブに対して特定のアクションを実行するには、印刷ジョブを選択し、メニューバーにある使用可能な選択肢からアクションを選択します。

または、印刷ジョブの名前を右クリックし、使用可能なオプションのリストからアクションを選択することもできます。

次のアクションが表示されます。

 - 取消し
 - 保留
 - 解放
 - 再印刷
- 5 (省略可能) 「印刷待ち行列の表示」ウィンドウを更新するには、「表示」→「リフレッシュ」の順に選択します。

索引

C

CUPS

印刷ジョブを管理する方法, 49-50

印刷デバイスの選択, 38-39

プリンタの名前変更またコピーの方法, 47

プリンタプロパティの設定, 44-45

プリンタプロパティを変更する方法, 45-47

プリンタを共有または共有解除する方

法, 48-49

プリンタを有効または無効にする方法, 49

リモート印刷待ち行列の管理, 36-38

CUPS Web ブラウザインタフェースへのアクセス, 29-30

CUPS 印刷サーバー, 詳細設定の構成, 36

CUPS 印刷マネージャー GUI, 9-12

CUPS 印刷マネージャー GUI を起動する方法, 34

CUPS スケジューラ, 29-30

CUPS の GUI

印刷デバイスの選択に使用, 38-39

プリンタの削除, 48

ローカルプリンタの設定, 39-41

CUPS の概要, 9-12

CUPS の構成, リモート印刷待ち行列の管理, 36-38

CUPS のサービス, 10-11

L

lp

印刷

セカンダリプリンタ, 22-23

lpadmin コマンド, プリンタの設定, 18-20

lpstat コマンド, プリンタのステータスの確認, 23-24

lp コマンド

ファイルの印刷

デフォルトプリンタ, 25

W

Web ブラウザインタフェース, CUPS, 9-12

あ

新しいプリンタの追加, CUPS Web ブラウザインタフェースを使用した, 33-34

アップグレード用の印刷環境の設定, 15-16

い

印刷環境の設定, 13-16

コマンド行ユーティリティを使用した, 16-17

印刷環境を設定する方法, 14-15

印刷サーバーの構成, CUPS, 36

印刷ジョブ, CUPS を使用した管理, 49-50

印刷ジョブの管理, CUPS を使用した, 49-50

印刷デバイス

選択

CUPS, 38-39

印刷待ち行列, CUPS, 10

印刷待ち行列の設定, CUPS を使用した, 11
印刷リクエストの管理, CUPS を使用した, 11-12

か

概要

CUPS, 9-12
CUPS 印刷マネージャー GUI, 34
system-config-printer, 34

き

共通の印刷管理タスク, 31

こ

コマンド行ユーティリティー, CUPS, 17-18
コマンド行ユーティリティー, CUPS, 9-12

し

指定したプリンタへの印刷, 22-23
使用可能なデバイスを一覧表示する方法, 28-29
使用可能なドライバを一覧表示する方法, 28-29
詳細なサーバー構成, CUPS, 36

す

ステータスの確認, プリンタ, 23-24

た

タブ

CUPS Web ブラウザインタフェース, 31
「管理」タブ
CUPS Web ブラウザインタフェース, 32-33
「プリンタ」タブ
CUPS Web ブラウザインタフェース, 33

て

デバイス, CUPS を使用して選択する方法, 38-39
デフォルトプリンタ
LPDEST 変数, 20-22
PRINTER 変数, 20-22
コマンド行, 20-22
デフォルトプリンタの設定, CUPS コマンドを使用した, 20-23

と

トラブルシューティング, CUPS Web ブラウザインタフェース, 30-31

ね

ネットワークプリンタの設定, CUPS コマンドを使用した, 26-29
ネットワークプリンタを追加する方法, 27-28

ふ

ファイルの印刷, デフォルトプリンタ, 25
プリンタ
共有および共有解除
CUPS, 48-49
削除する方法
CUPS を使用した, 48
有効化と無効化
CUPS, 49
プリンタアクセスを削除する方法, 25-26
プリンタ構成のコピー
CUPS を使用した, 47
プリンタの管理, CUPS Web ブラウザインタフェースを使用した, 29
プリンタの共有, CUPS を使用した, 48-49
プリンタの共有解除, CUPS を使用した, 48-49
プリンタの削除, CUPS を使用した, 48
プリンタの設定
CUPS Web ブラウザインタフェースを使用した, 29
CUPS の GUI を使用した, 39-41

- プリンタの設定 (続き)
 - CUPS を使用した, 11, 13-41
- プリンタの設定方法
 - CUPS コマンドを使用した, 18-20
 - 異なるサブネット上の
 - CUPS コマンドを使用した, 27-28
- プリンタの名前変更
 - CUPS を使用した, 47
- プリンタの無効化, CUPS を使用した, 49
- プリンタの有効化, CUPS を使用した, 49
- プリンタプロパティー
 - CUPS を使用した, 44-45
 - CUPS を使用した変更, 45-47
- プリンタプロパティーの変更, CUPS を使用した, 45-47
- プリンタを削除する方法, 25-26
- プロセス, CUPS, 10
- プロパティー
 - プリンタの構成
 - CUPS, 44-45

よ

- 要件, CUPS Web ブラウザインタフェース, 29-30

り

- リモート印刷待ち行列, CUPS の構成, 36-38
- リモート印刷待ち行列の管理, CUPS の構成, 36-38

ろ

- ローカルサーバーの構成, CUPS, 36
- ローカルプリンタ
 - 設定する方法
 - CUPS, 39-41

